

～事前キャンプを誘致し、区民との交流機会を創出～

ハンガリー国競技団体と

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における事前キャンプ実施に係る覚書」を締結 ＝北区＝

11月26日(月)、北区はハンガリー国柔道協会及びフェンシング連盟と「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における事前キャンプ実施に係る覚書」を締結した。

この日、北とぴあ(王子1-11-1)に同国競技団体関係者等を招いて執り行われた調印式において、柔道及びフェンシング両競技団体それぞれと覚書を締結。今後は、同大会の事前キャンプ期間中、両競技団体に対して区内スポーツ施設を練習場として提供するとともに、選手・関係者と区民が交流できる機会を設け、地域住民や子どもたちの国際理解の促進をしていく。



覚書調印式の様子

味の素ナショナルトレーニングセンター(西が丘3-15-1)や国立スポーツ科学センター(同)など、世界レベルのアスリートが集う施設が集中している北区では、「トップアスリートのまち・北区」を掲げ、東京2020大会に向けて様々な取組みを行っている。その中で北区は、I F基準を満たした施設*1(区立赤羽体育館、区立滝野川体育館)があることから、東京2020大会に参加する国・地域の競技団体の事前キャンプ誘致を検討していたところ、ハンガリー国競技団体から打診を受け、区内施設の視察、区長表敬訪問等を経て、同国柔道協会及びフェンシング連盟と合意。これに伴う覚書の締結に至った。特にフェンシングは区が東京都フェンシング協会およびNPO法人日本車いすフェンシング協会の協力のもと、通年で教室を開催し注力してきた競技であることから、フェンシング強豪国である同国の誘致を進めてきた。

この日、北とぴあで執り行われた覚書調印式には、同国の競技団体関係者、大使館関係者のほか、区関係者等約80名が出席。花川與惣太北区長とハンガリー柔道協会(会長: トート・ラズロ)およびハンガリーフェンシング連盟(会長: ジョルト・チャンパ)がそれぞれ覚書を取り交わした。調印式後に行われた懇親会では、同国オリンピック委員会のクリスチャン・クルチャール会長も駆けつけ、祝辞を述べた。

今後は、事前キャンプ期間中に、柔道・フェンシング両競技団体に区内スポーツ施設を練習場として提供するとともに、区が企画する事業に選手や関係者が参加し、区民と交流できる機会を設け、地域住民や子どもたちの国際理解の促進をしていく。

花川與惣太北区長は「日本とハンガリー国の外交150周年を来年に迎え、本日事前キャンプの覚書調印式を迎えることとなり大変嬉しく思います。このキャンプが大会の気運醸成とレガシーの創出に繋がるよう、区民との交流を広げていきたいと思っております。」と話した。

*1 I F基準を満たした施設

国際競技連盟(I F)が定めた基準に適合している施設。赤羽体育館がフェンシング・車いすフェンシング、滝野川体育館が柔道に適合